

平成25年度片瀬地区社会福祉協議会事業報告

◎部会活動・事業

【総務部会】

1. 研修関係

【ガイダンス研修】

- と き 平成25年4月26日（金）午前10時～12時
ところ 片瀬市民センター 2階ホール
参加者 31名
講 師 倉持泰雄 氏（藤沢市社会福祉協議会事務局長）
尾花裕樹 氏（同総務課課長補佐）
内 容 主催者あいさつ（杉山会長）、「地区社協とは、その位置づけなどについて」（尾花氏）、「ボランティア等、地域の福祉活動の状況について」（倉持氏）、「今後の地区社協の事業の方向性について」（会長）、「同、事業内容について」（各部会より）、質疑の後、閉会。昨年度につづいて2度目のガイダンス。参加者31人のうち、15人から感想文が提出され、市社協の概要や他地区のことが分かった、今後の取り組みに努力したいとの感想ともに、福祉とは何か、生活支援について考えるべき、ボランティアの立場では負担が大きすぎるなどの意見も出された。

【理事研修】

- と き 平成25年6月3日（月）午前8時半～午後3時半
ところ 秦野市役所 都市交通部公共交通推進課
渋沢駅南口より柘窪・渋沢の乗降ポイント（オンデマンド見学）
秦野赤十字病院の乗降（路線固定型見学）
参加者 20人（理事14人、自治会3人、事務局2人、自治会関係3人）
行 程 片瀬→秦野市役所→駿→小田急渋沢駅→近くの乗降ポイント→片瀬
内 容 タクシーを利用した公共交通網の実際を見学。秦野市で推進しているタクシーを利用した公共交通網整備について、約2時間市役所で保坂交通部公共交通推進課長より説明を受けた。バス路線廃止に対処するため、研究を積み重ねた経過が分かった。特に交通網の維持拡充にむけた地域住民の積極的な取り組み、幹線網を運行する事業者との調整、採算確保と行政からの積極的な支援、利用料が低額、固定額であることへの安心感も重要な点。オンデマンド、路線固定型の車両、乗降ポイントの見学。午後は、その実際を見学。渋沢駅では、オンデマンド運行事業者から地域貢献という経営判断など前向きに対応した経過が話された。続いて、近くのオンデマンドの乗降ポイントに移動、一部は歩いて住民の生活環境を見た。片瀬山と同様の急傾斜地に、住民の声を反映して短区間に複数の乗降ポイン

トが設けられていた。その後、路線固定型の乗降場を車中から見ながら、秦野赤十字病院に移動。ワゴンのタクシーが病院を出発する場面も見ました。地区社協としての課題。住民、行政、事業者が一生懸命に連携、努力され、高齢化のすすむ片瀬地区の外出困難者への支援の参考になると思われました。本研修に、自治連、片瀬山自治会からもご参加を得た。この種の課題は、自治会等とよく連携することが必要である。秦野市の保坂課長、3人の職員の皆さんが、少ない体制でかつご多忙中にもかかわらず、長時間同行し、説明していただいた。

【評議員研修】

と き 平成25年6月24日(月) 午前9時半～午後2時半
ところ ①小規模多機能型居宅介護「おたがいさん」 (株)あおいけあ
②クロスハート本鵜沼・藤沢 社会福祉法人 伸こう福祉会
参加者 22人(評議員18人、地区諸団体2人、事務局、運転手)
行 程 片瀬→六会公民館→「おたがいさん」→「クロスハート本鵜沼・藤沢」→片瀬
内 容 2005年(平成17年)の介護保険法の改正で創設された地域密着型サービスを理解するための視察研修を行いました。六会公民館会議室で、「おたがいさん」の責任者の加藤忠相氏を講師に、小規模多機能型居宅介護事業のポイントを学びました。地域で暮らす認知症の方々を支える大切な事業であることが実感できました。「おたがいさん」では、利用者の皆さんが、デパートで買物をしてワゴン車で帰着された。自ら配膳、昼食をとられる様子を拝見。「クロスハート本鵜沼・藤沢」では「認知症対応型共同生活(グループホーム)」を見学。全員個室でトイレつき。利用者はリビングで穏やかにすごしておられた。車中で参加者の感想を出し合った。かつて親の介護をしたとき、その頃の事業者の介護内容について疑問を感じた諸点があったが、小規模では、そんなに力まないで解決されているとの感想がだされた。この事業を積極的に推進される事業者のアツイ思いを感じたとの感想も共通している。グループホームでは、不応行動は原因を解決すること、そうすれば穏やかにホームで暮らせるとのお話しや、鵜沼の地に住む家族とのつながりを維持して、時に帰宅される方もいらっしゃるとのお話を印象深くうかがいました。

2. 福祉講演会

【映画「うまれる」上映会】

と き 平成25年12月7日(土) 午後2時～4時
ところ 片瀬市民センター ホール
参加者 192人
内 容 子育てをめぐる悲惨な報道が増える中で、命をつなぐ、家族の絆、命の大切さ、生きることを考える機会にするために、片瀬地区民生委員・児童委員協議会、片瀬地区青少年育成協力会との共催で幅広

い世代が参加できる映画会をおこなった。映画「うまれる」（監督豪田トモ）は、妊娠・出産・育児、流産・死産、不妊、障害などをおして、生まれることを幅ひろくとらえたものである。近隣の行政区でも、自主上映会や教育委員会の主催などで繰り返し上映されている。当日は、10時、13時半の2回上映した。観客は192人、8割が片瀬地区在住者。多くの若い夫婦が赤ちゃん連れで来場し、いっしょに観賞した。15歳未満が3割をしめた。アンケートは119通、ほとんどが良かったとの感想であり、記述式の感想文からは、非常に前向きな声が寄せられた。親子、赤ちゃん連れで楽しめる企画としても喜ばれ、引き続き同様の企画をしてほしい、子供の遊び場がほしいとの希望もだされた。スタッフとして50人がかかわる事業となった。全戸配布、ポスターの掲示、機会をとらえてのお誘い、当日は万全の体制をとった。地区内多数の関係者のご協力があったからこそ上映できた。共催団体の関係者は、繰り返し企画検討し、上映会成功のために努力した。地区内諸団体が協力し合う貴重な経験となった。今後とも、子育ての課題で積極的に協力し合う土台ができた。

3. 高齢者介護にかかわる支援

【認知症サポーター養成講座】

と き 平成25年11月19日（火）10時～12時
ところ 片瀬市民センター第3談話室
参加者 17人（他、講師関係7人）
内 容 認知症を理解し認知症者への対応を学ぶために、講師として加藤忠相氏（小規模多機能型居宅介護「おたがいさん」）、キャラバンメイトをお招きした。「認知症を知り地域をつくる」全国的なキャンペーンの一環として、藤沢市高齢者支援課とキャラバンメイトとの連携で開催。講師のお話、寸劇とグループに分かれての議論で理解を深めた。アンケートは11通提出され、「講座は中身が濃く、とても良かった」との評価とともに、前回の講座と同様に「やさしくできない自分に自己嫌悪におち入る」との声も複数あった。実際の介護の苦労や悩みが寄せられた。質疑のなかで、かつての親の介護について自分自身が傷を負っていること、年老いていくなかで感じる辛さを誰がどのようにケアしてくれるのだろうかといった訴えがだされた。

【車いすの操作、移乗の講習会】

と き 平成25年9月24日（火）10時～12時
ところ 社会福祉法人上村鵜生会の鵜生園、地下会議室
参加者 18人（含む、事務局）
内 容 在宅介護が進むなかで、車いすの取り扱い車いすへの移乗は、基礎的な介護技術になっている。この技術を習得する機会として開催し

た。講習会は、社会福祉法人上村鵠生会の全面的なご協力のもとに実施した。講師は、同法人居宅介護支援センターの3氏。また最新の介護機器は専門の事業者さんから提供していただいた。杉山会長のあいさつ。上村鵠生会理事長の番場定孝氏あいさつ。萩原優文氏を講師に座学と模範実技を30分。その後、実習を1時間。給食の試食30分。12時に終了。参加者の感想は好意的で、介護実技を必要とする地域の方々が多いことが判明した。介護技術は日進月歩であり、情報提供の場としても役立った。昼食を試食したが、食材の原型を壊さないでやわらかく煮込んであり、食べやすく、おいしいとの感想が共通している。

【家族を介護している人のつどい】

- 第1回 日 時 平成25年6月18日(火) 10時～11時半
ところ 片瀬市民センター第2談話室
参加者 5人(他、支援の専門職2人、主催者4人)
内 容 片瀬地域在住の家族介護者が自由に語り合い、それをつうじて介護の疲れを減らす、介護に役立つ情報を交換する、地域の専門職とのつながりをつくる機会にする。従来通り、片瀬地区社会福祉協議会、片瀬地域包括支援センター、特別養護老人ホーム鵠生園(相談課)の共催、参加受付は包括。自治・町内会の回覧以外に、以前の参加者で感想文に住所、氏名を明記された方に案内状を送付した。専門職は、地域包括・廣野真弓氏、鵠生園・羽仁晶子氏。
- 第2回 日 時 平成25年8月28日(水) 10時～11時35分
ところ 片瀬市民センター第3談話室
参加者 4人(他、支援の専門職2人、主催者4人)
内 容 第1回に同じ。専門職は、地域包括・竹本てるみ氏、鵠生園・眞田啓史氏。
- 第3回 日 時 平成25年11月27日(水) 10時～11時30分
ところ 片瀬市民センター第2談話室
参加者 4人(他、支援の専門職1人、主催者4人)
内 容 第1回に同じ。専門職は、地域包括・廣野真弓氏。
- 第4回 日 時 平成26年2月5日(水) 10時～11時30分
ところ 片瀬市民センター第2談話室
参加者 5人(他、支援の専門職2人、主催者4人)
内 容 第1回に同じ。専門職は、地域包括・廣野真弓氏、鵠生園・羽仁晶子氏。

課題など

参加者からは、話をすることによって気持ちが楽になったと、間違いなく喜ばれている。男性が多いのも特徴。参加者のために移動支援が必要か?と思われる相談もあった。介護上の悩み解決に役立てた方もうまれている。参加者が少ないこと、運営の方法は適切なのか、ストレスを発散だ

けでなく、心的外傷（p t s d）ともいふべき状態へどのように対応するか、探求が必要である。

4. 介護予防にかかわる取り組み

【めざせ元気シニア】

- 第1回 日 時 平成25年10月8日（火）10時～12時半
ところ 片瀬市民センターホール、第3談話室
参加者 21人（含む講師関係者4人）
内 容 介護予防、認知症予防に、引きこもりがちな高齢者が、すこしでも外出して体を動かす、周りの人と話し合う場にする。講師は、橘高靖子氏（神奈川県レクリエーションサポート協会理事長）、二見勝氏（地区社協総務部員、藤沢市レクリエーション支援者クラブ「ゆう」）。照れくささをはねのけて大声で笑う、大声でテキストを読む、迫力があつた。健康でありたいとの強い思いを感じた。自治・町内会の回覧以外に、以前の参加者で感想文に住所、氏名を明記された方に案内状を送付した。
- 第2回 日 時 平成25年12月3日（火）10時～12時半
ところ 片瀬市民センターホール、第3談話室
参加者 17人（含む講師関係者 人）
内 容 講師は、松崎幸子氏（健康生活アドバイザー）、二見勝氏（地区社協総務部員、藤沢市レクリエーション支援者クラブ「ゆう」）。前回同様、皆さんの意気込みを感じた。
- 第3回 日 時 平成26年2月18日（火）10時～12時50分
ところ 片瀬市民センター第1談話室
参加者 31人（含む講師関係者4人）
内 容 第2回と同じ

課題など

人と話をする機会のない人やリハビリを目的に参加する人、夫婦での参加、リピーターになった人など、介護予防の視点や人とのつながりを作り出す重要な機会となっていることが確認できた。男性の参加や、片瀬山居住者の参加が多いことも特徴的である。次回も参加したい、回数を増やしてほしい、全市的に企画を増やしてほしいとの希望は多い。開催を知るきっかけは、回覧、個別に郵送した案内、ポスター、その他、地域包括やセンター窓口での案内と多様である。

5. 障がいの理解をひろげる取り組み

【障がい福祉ミニ講座】

第1回

- 日 時 平成25年9月4日（水）10～12時
ところ 片瀬市民センター第2談話室

参加者 21人（他、講師と手話4人）
内 容 「障がいとは？障がい者の歩む人生」が主題。尾上義和氏（藤沢市発達障がい者相談支援事業所リート）から障がいの理解、支援の課題など大きな枠組みを話された。首藤しげみ氏（藤沢市自閉症児・者親の会会長）は、幼児期からの数々の苦労、親の気付き、働きかけの工夫などリアルにお話をしていただいた。

第2回

日 時 平成25年10月12日（土）10～12時
ところ 片瀬市民センター第2談話室
参加者 19人（他、講師と手話他5人）
内 容 「幼児期から青年期にかけても障がい児・者支援」が主題。高梨恵氏（藤沢市子ども家庭課）は相談受け付け、支援の仕組みを具体的にお話しされた。入澤正樹氏（前白浜養護学校長）は子どもの発達、障がい者の引き起こすさざなみを包み込める社会をと、具体的なお話しをされた。

第3回

日 時 平成25年12月10日（土）10～12時
ところ 片瀬市民センター第2談話室
参加者 20人（他、講師と手話他5人）
内 容 主題は「社会に出て行くことに困難のある人を支える取り組み」。小川菜江子氏（湘南地域就労援助センター長）は障がい者の一般就労支援の仕組みと退職者の受け入れの課題を、由井真理子氏（若者しごと応援塾ユースワークふじさわ施設長）は引きこもりなどの困難を抱える方への支援活動についてのお話しとDVD上映をされた

課題など

知ることが大切、基本的な理解ができた、リアルな体験に感動した等、参加者が非常に理論的かつ実践的に受け止める機会となった。ボランティアに事前に提供されるべき最小限の個人情報、障がい者手帳取得の得失、支援の必要性を自覚していない家族への働きかけのあり方、学習障がい者の就労の悩みなど、体験にもとづく質問が多いことも特徴。支援の現場を見学したいとの要望をもとに、就労現場を見学することにつながった。次年度以降にも発展させるべき課題と思われる。

【障がい者の就労現場の見学】

障がい福祉ミニ講座の追加企画として、障がい者支援事業者による就労移

行支援、特例子会社、一般の職場での就労の様子を見学した。参加者からは、就労の実情を理解するうえで役立った、障がい者のもつ多様な力を理解する機会になった、雇用促進への期待などが出された。

第1回

2月25日(火) 9時半～13時半、11人(うち事務局2人)で実施。(社福)藤沢育成会「みらい社」(藤沢市石川)を見学して説明をうけた。部品組み立て作業など。就労移行支援(10人)、就労継続支援B型(30人)。40人定員に希望者が多く50人受け入れ。平均工賃1万8千円。(社福)創「カフェ・ウイング労働会館店」(就労継続支援B型)に移動し、昼食。接客スタッフとして3人。会議室をお借りして、意見交換をした。

第2回

3月4日(火) 9時半～13時半、7人(うち事務局2人)で実施。(社福)ひばり「ハートピア湘南」(藤沢市善行)を見学し、鈴木施設長より説明を受けた。クリーニング、清掃作業をとおして就労移行支援(22人)、就労継続支援B型(30人)。平均工賃2万3千円。施設開設以降90人近い利用者が一般就労、最近は年10人以上。隣接する生活介護「湘南むぎばたけ」も見学。(社福)ひばり「コーヒーポット」(善行団地内)に移動して食事。一言ずつ感想をだしあった。

第3回

3月7日(金) 9時半～12時、19人(うち事務局2人)で、特例子会社アズビル山武フレンドリー株式会社を訪問。諸星取締役から40分概要の説明を受けた。30人が働き、平均給与は13万7千円。指導員(援助者)は4人。約30分、文書の社内集配や宅配物の応対、資料印刷・製本などを見学。その後、予定時間を大幅に超過し、昼前まで質疑応答が続いた。

第4回

3月11日(火) 9時40分～12時、11人(うち事務局2人)で、藤沢市役所文書統計課を訪問。第2庁舎内の文書集配業務を見学、村井統計課長からメール便送達業務に携わる二人の業務の流れについて説明を受け、さらに、集配業務の部屋を訪問して実作業を見学した(業務委託先の雇用)。(社福)ひばり「喫茶すかいは一と」(就労継続支援B型)でお茶を飲みながら感想を出し合い、感想文を記入した。

課題など

参加者の感想や意見(詳細は別添)をふまえて、来年度以降も、今年度の事業と同様に、本編のミニ講座と見学会を検討する。企画・運営の充実をはかるうえで、共同生活援助(グループホーム)、障がい者の権利とその擁護の扱いも検討する。

【広報部会】

1. 社協だより「しあわせ」の発行

42号 発行日 平成25年 6月25日
主な内容 エンディングノート特集, 柿狩り・研修会・総会報告

43号 発行日 平成25年11月25日
主な内容 小規模多機能型居宅介護施設の取材, 敬老会・講座報告

2. 学習会

と き 平成26年 2月 4日(火) 10:00~12:00
ところ 片瀬市民センター第2談話室
参加者 14名(広報部員 その他)
内 容 小曾利男氏(神奈川新聞企画編集部)を講師に、広報の企画から原稿のレイアウト、見出しの使い方等を学習しました。他の地域団体等の広報担当者も参加し、今抱えている問題や取材の仕方、写真の取り方などの質問があり、これからの広報作成の参考になるいろいろなお話しをしていただきました。

3. 研修会

と き 平成26年 2月27日(木) 10:30~15:00
ところ 絆(鵜沼橋1-2-4-505)
いこいの郷 花梨(羽鳥3-21-10)
参加者 6名(広報部員)
内 容 小規模多機能型居宅介護施設を2カ所を訪問しました。絆は街の中にあるマンションの一室で、伺ったときには5人の利用者がテーブルを囲んで元気に話し合っていました。利用者ひとりひとりにリハビリメニューが作成されているとのこと、自分のできることは何でも手伝い、昼の外食も楽しい時間のようでした。花梨は、築20年の普通の民家をリフォームした施設で、普通の暮らしにこだわり敷居などの段差がありました。広い庭には四季折々の花や果物がなり、庭いじりも楽しむことができます。リビングでは3人の女性の利用者が、お昼寝から目覚めて明るい声が聞こえてきました。どちらの施設も、住み慣れた地域でその人らしく普通に生活することをお手伝いするもうひとつの家として、利用者を支えている場所であることを実感しました。

【事業部会】

散策事業

～ ビール工場見学&柿狩りツアー ～

と き	平成25年11月15日（金）9：00～15：15
と ころ	アサヒビール神奈川工場（南足柄市） 関根果樹園（亀井野） JAわいわい市藤沢店（亀井野）
参加者	54名（地域の方40名、従事者11名、看護師1名、事務局1名、運転手1名）
行 程	下諏訪神社前→アサヒビール神奈川工場→関根果樹園→わいわい市藤沢店→下諏訪神社前
内 容	天候に恵まれ交通渋滞もなく、スムーズに実施されました。アサヒビール神奈川工場で見学後食堂にて懐石弁当を楽しみ、果樹園では雨のため柿の持ち帰りだけとなりましたが、わいわい市では買い物を楽しむことができました。また、移動中の車中でも、看護師による体調維持の注意点の説明や座ったままでできる手足の体操指導などもあり、有意義な時間を過ごすことができました。

児童交流会

と き	平成26年 2月 7日（金）9：30～13：30
と ころ	片瀬小学校
参加者	片瀬小学校3年生約140名、各担任教師4名、校長、地域参加者16名、従事者9名、事務局2名
流 れ	地域協力者からの話（各教室） 10：45～11：30 ・終戦前後の暮らし（衣食住）について ・昔の片瀬小学校の様子と子どもの遊びについて ・その他、自由に質疑応答（昔の江ノ電など） ※市長が視察に来られました。
内 容	昔の遊び（体育館） 11：35～12：20 ・竹馬、ゴムとび、こま、紙飛行機、紙でっぼう、糸電話など各グループの児童と一緒に給食をいただきながら交流。 社協が揃えた写真を主とした資料を講師である各地域協力者に託し、説明をしていただいたところ、話だけより見ることでよく伝わったと教師にも好評でした。さらに、講師によっては個人的にまとめた資料や遊び道具を持参され、児童の理解に幅を持たせてくださいました。児童たちは、それぞれ興味深く話を聞き、有意義な時間を過ごせたと思います。その後、体育館に移動し昔遊びを体験しました。どの遊びにも列ができ、体育館は楽しそうな声であふれていました。地域協力者や担当者も、子どもたちからたくさんのパワーをもらって帰ることができ、また、後日に子どもたちからのお礼や感想などをいただき、大変喜んでいました。

【ふれあい部会】

地区敬老会

- と き 平成25年9月10日（火） 10：30～13：00
ところ 秩父宮記念体育館
参加者 409名（対象者282名，長寿夫妻29名，付添人5名，市長1名，来賓16名，評議員39名，民生委員29名，事務局8名）
内 容 片瀬地区にお住まいの80歳以上（片瀬地区対象者1,876名）の方と付添人5名及び結婚50周年・60周年を迎えられた長寿夫妻、合計316名をお招きしてお祝いをいたしました。

敬老事業

- 内 容 80歳を迎えられた方（210名）にお祝いの品を贈呈し、100歳を迎えられた方（7名）には市長訪問に併せてお祝い金を贈呈いたしました。

福祉バザー・掘り出し市

- と き 平成25年10月26日（土） 10：20～12：00
10月27日（日） 10：20～15：00
ところ 片瀬市民センターホール（26日）
しおさいセンター駐車場（27日）
内 容 片瀬ふれあいまつり（公民館まつり）の一環として、ご家庭からご寄付いただいた品物を活用して福祉バザーを開催しました。バザーの収益金は、地域の福祉活動に還元させていただきます。（売り上げ金183,550円）

ふれあいお楽しみ会

- 参加者 片瀬地区内在住の70歳以上の方延べ157名
第1回 平成25年 6月 6日（木） 9：30～14：30
県立花菜ガーデン，JAあさつゆ広場（平塚）
47名参加
第2回 平成25年10月11日（金） 11：00～13：00
フラワーセンター大船（鎌倉），わいわい市（藤沢）
55名参加
第3回 平成26年 2月13日（木） 9：30～14：30
曾我別所梅林，鈴廣（小田原） ※初めてのコース
55名参加（申し込み15分で定員満席，キャンセル無し）

◎その他事業

かたせ・にこにこ広場

片瀬地区ボランティアセンター（ひだまり片瀬）にて、第1以外の木曜日に子育て支援活動を38回行いました。月に一度、健康講座や絵本読み聞かせなども開催。外遊びがまだできないお子さんの遊び場として、また、親同士の交流や相談の場として役立てていただき、延べ1,447名の参加がありました。

支援活動（福島県大熊町へ）

東日本大震災による原発事故で被災した大熊町は、未だに具体的な復興への取り組みができない状況にあります。5万円を支援金として寄付いたしました。

日赤社資の募集

日本赤十字社は、国内外の救援活動をはじめ地域のニーズに応じた福祉ボランティア活動など幅広く事業を展開していますが、その資金は賛同者から自治・町内会を通じて寄せられた社資により支えられています。平成25年5～6月 地区実績額1,398,880円

赤い羽根共同募金運動の推進

寄付金は地域の中で様々な活動を展開する民間の福祉団体を支える資金として、有効に活用され福祉の向上に寄与されています。自治・町内会を通じてご協力いただきました。平成25年10月～ 地区実績額1,580,500円

年末助け合い募金運動の推進

生活基盤が弱く支援を求める人々など誰もが、住み慣れた地域で安心して生活していくためには、行政の施策と相まって、地域の問題をお互いに協力し合い解決していく取り組みや、年間を通じた計画的な援助が必要なため、年末助け合い運動が展開されています。自治・町内会を通じてご協力いただきました。平成25年12月～ 地区実績額683,300円

ねたきり高齢者見舞品

ねたきりの高齢者の方々に、少しでも快適な生活を送っていただけるよう、民生委員を通じて15人の方に洗剤をお贈りいたしました。

車椅子の貸し出し

通院・外出・一時退院・墓参などの利用に社協の車椅子を貸し出しています。平成25年度の利用件数は24件。段差を乗り越える際などの操作が少しでもスムーズになるよう、車椅子に簡単に脱着できる牽引装置を購入しました。

片瀬地区新年賀詞交歓会

片瀬地区自治町内会連絡協議会との共催事業として実施しました。平成25年度は136名の方が参加されました。